

次世代交通ビジョンおきなわ

～ ステップ 2「地域ごとの交通の目指す姿」～

1. 南部地域
2. 那覇周辺地域
3. 中部地域
4. 北部地域
5. 離島

1. 交通の目指す姿（南部地域）

南部 那覇と速く結び、地域拠点を中心に集落まで支える

ワークショップでは、朝の渋滞で那覇まで1時間かかること、那覇の駐車場代が高くクルマでは行きにくいこと、部活や塾の送迎が家族の負担になっていることが挙げられました。

南部地域では、那覇まで素早く移動できること、地域拠点と集落を多様な交通手段で支えること、レンタカーを使わなくても観光地を周遊できることを目指します。

移動がもたらすもの

那覇まで、渋滞に関係なく移動できる

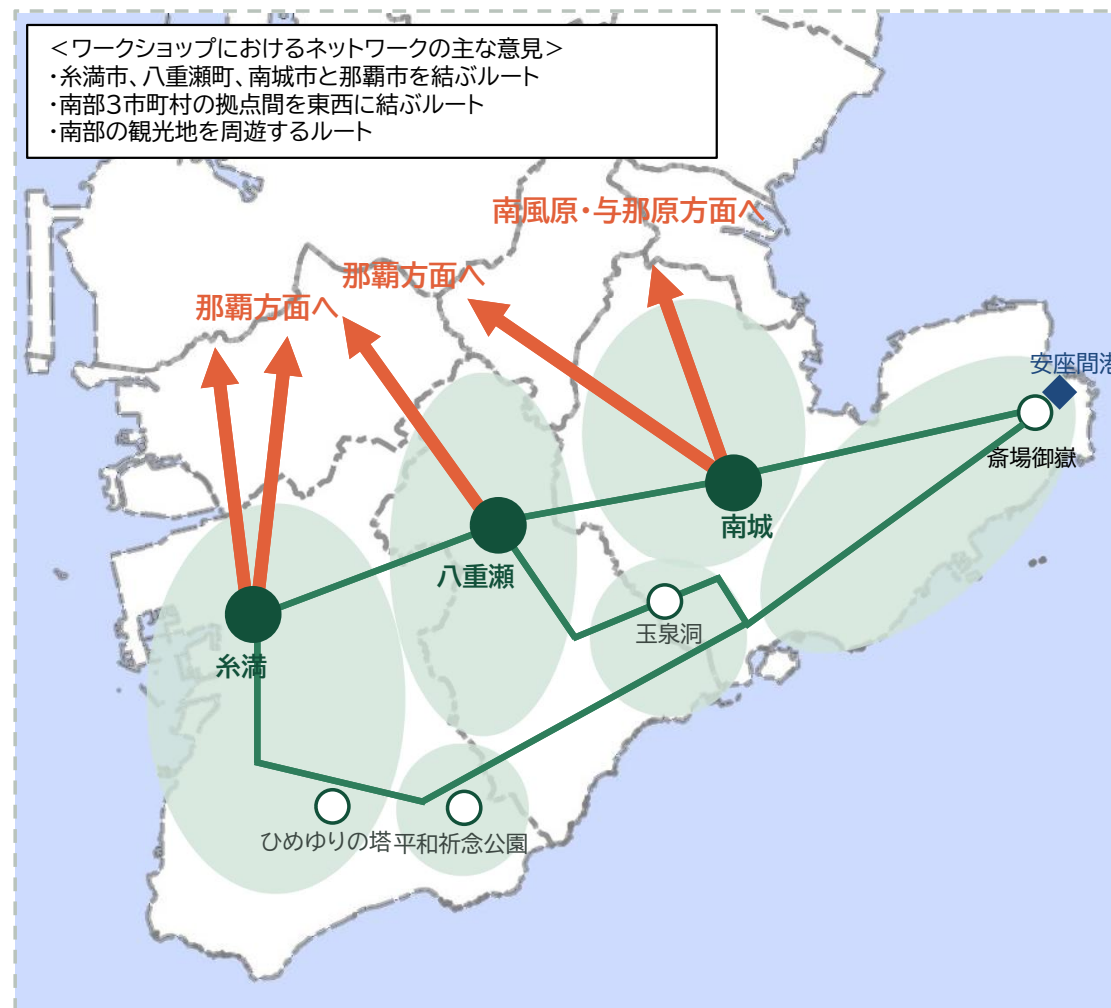
那覇まで速達性の高い交通で結ばれ、朝・夕の渋滞に時間を取られずに通勤・通学ができる。

家族送迎に頼らず、自分で移動できる

地域拠点から自宅まで多様な交通手段で支え、こども・学生が自分で学校・部活、塾に行けるとともに、高齢者が免許を返納しても通院・買物ができる。

クルマなしで観光地を移動できる

観光地が公共交通で結ばれ、レンタカーを使わなくとも移動ができる。



■ ①圏域の外とつなぐ：南部地域と那覇方面を結ぶ

■ ②市町村どうしをつなぐ：地域拠点や観光地を結ぶ

■ ③市町村の中をつなぐ：地域拠点と集落を結ぶ

● 圏域を繋ぐ結節点 ○ 地域の拠点 ◇ 空港・港湾 緑の面＝市町村の中を支える範囲

2. 交通の目指す姿（那覇周辺地域）

那覇周辺

南北の軸に東西を加え、クルマがなくても移動できる都心へ

ワークショップでは、渋滞で移動時間が読めないこと、東西に公共交通で移動しづらいこと、那覇空港に人の流れが集中することが挙げられました。

那覇周辺地域では、南北への移動を強化すること、那覇空港と都心部の分散移動ができること、東西・環状線を整備すること、クルマを持たなくても移動できることを目指します。

移動がもたらすもの

南部や中部・北部へ、スムーズに移動できる

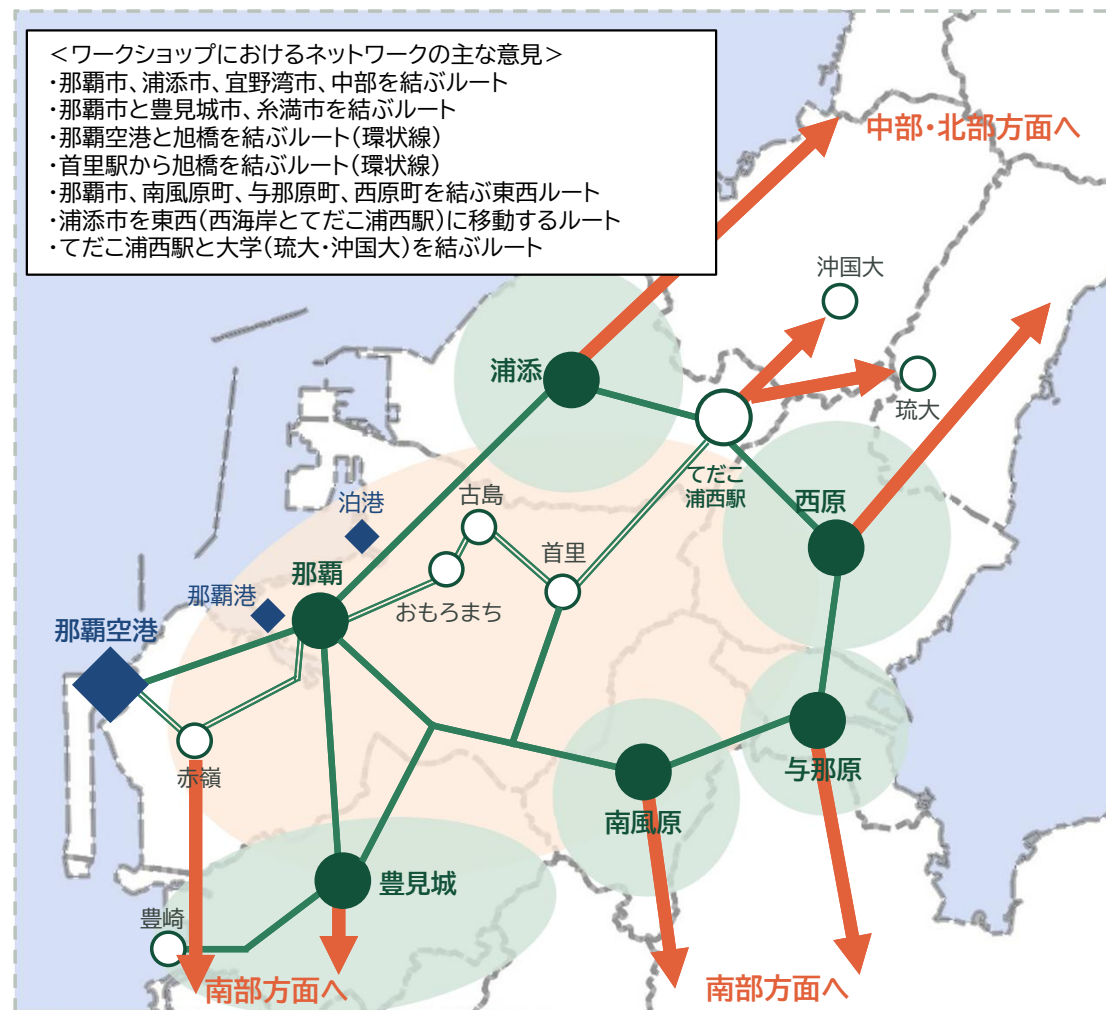
南北の交通軸をつくることで、都心部から南部や中部・北部方面にスムーズに移動ができる。また、那覇空港と都心部が分散して移動でき、渋滞やモノレールの混雑を抑制できる。

公共交通で東西に移動できる

那覇・豊見城と南風原・与那原、浦添と西原など、東西の拠点を結び、環状線をつくることで、那覇周辺地域を一体の都市として、気軽に移動ができる。

クルマを持たなくても移動できる

バス停やモノレール駅から目的地や自宅等まで、徒歩や自転車を含めた多様な移動手段が選択できる。都心部の移動を公共交通で担うことで、郊外から都心部へのクルマの流入を抑え、都心部ではクルマに頼らない移動ができる。



- ① 圏域の外とつなぐ：那覇周辺地域と南部、中部・北部を結ぶ
 - ② 市町村どうしをつなぐ：那覇周辺地域を環状線として結ぶ
 - ③ 市町村の中をつなぐ：バス停やモノレール駅と目的地や自宅等を結ぶ
 - ④ 都心部の移動を公共交通で担う：郊外から都心部へのクルマの流入を抑える
- 圏域を繋ぐ結節点 ○ 地域の拠点 ◇ 空港・港湾 緑の面＝市町村の中を支える範囲 橙の面＝渋滞緩和エリア

3. 交通の目指す姿（中部地域）

中部 南北の軸の強化に加え、地域拠点を中心に移動できる

ワークショップでは、那覇や北部へ向かう南北の移動に加え、西海岸と東海岸を結ぶ東西に移動できる公共交通が少ないこと、大学への移動手段(渋滞を含む)の強化が挙げられました。

中部地域では、南北への移動を強化すること、東西を繋ぐ公共交通を強化すること、地域拠点と目的地等を多様な交通手段で支えることを目指します。

移動がもたらすもの

那覇・南部や北部へ、スムーズに移動できる

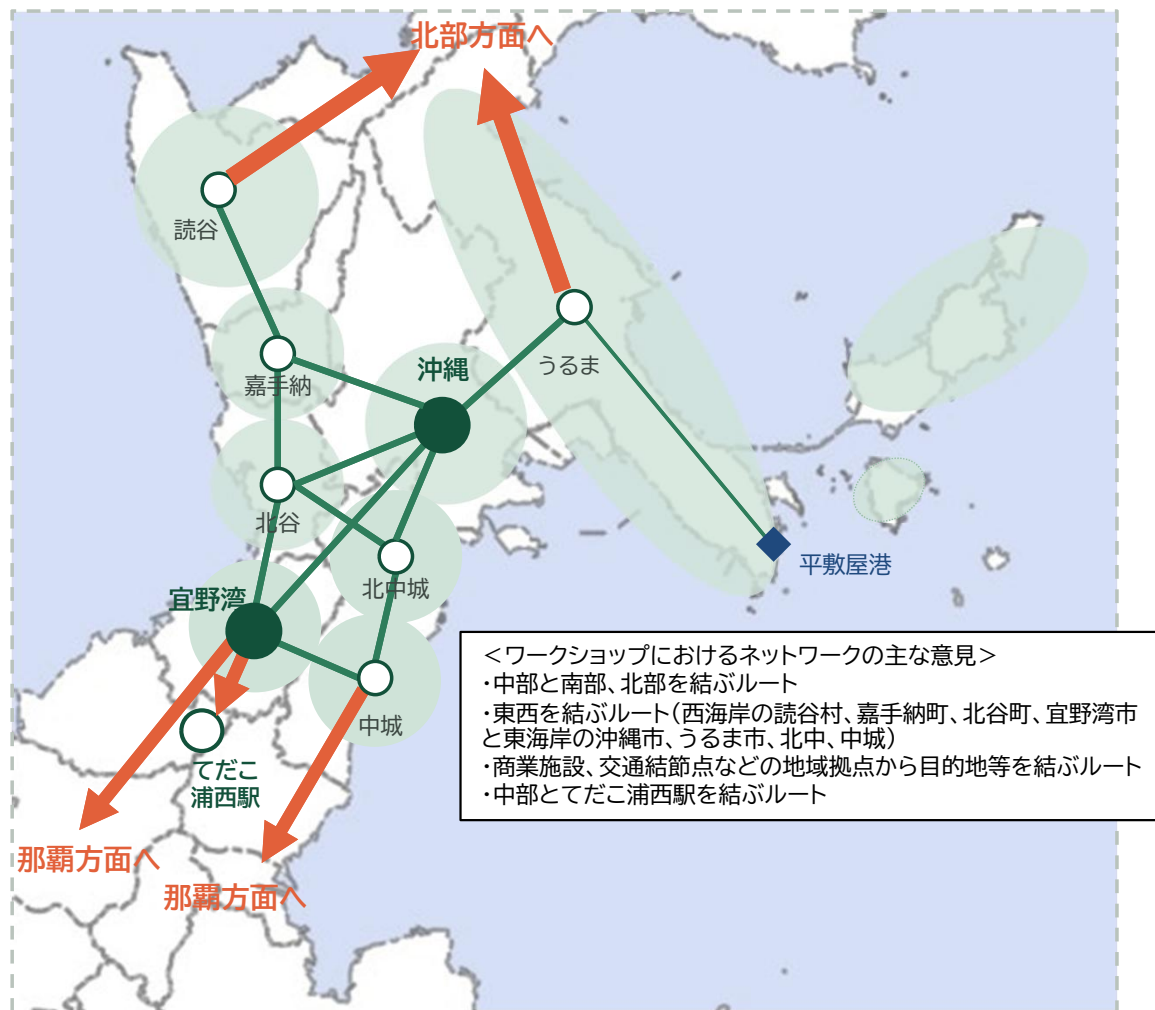
南北の交通軸をつくることで、渋滞に時間を奪われずに、那覇・南部方面に移動ができる。また、北部方面にもスムーズに移動ができる。

クルマがなくても、東西に移動できる

西海岸と東海岸を結ぶ公共交通を強化し、クルマがなくても東西に移動できる。また、基地返還後は、東西の公共交通ネットワークを強化し、近隣の市町村に移動ができる。

地域拠点を中心に、気軽に移動できる

商業施設や交通結節点(北谷GW、胡屋バスタ、てだこ浦西駅等)などの地域拠点から目的地や自宅、病院・大学等まで、多様な交通手段で支え、クルマに頼らず、通勤・通学や買物、通院ができる。



- ①圏域の外とつなぐ:中部地域と南北を結ぶ
 - ②市町村どうしをつなぐ:中部地域の東西を結ぶ
 - ③市町村の中をつなぐ:地域拠点から目的地や自宅、病院・大学等を結ぶ
- 圏域を繋ぐ結節点 ○地域の拠点 ◇空港・港湾 緑の面=市町村の中を支える範囲

北部 中南部と速く結び、名護を拠点に圏域内の移動を支える

ワークショップでは、那覇・中部への通勤や通院、免許返納後の買物・通院や部活の送迎、観光客の足の確保が挙げられました。

北部地域では、中南部と素早く移動できること、名護を拠点とし、名護市と各市町村の地域拠点、市町村の地域拠点と集落を多様な交通手段で支えること、レンタカーを使わなくても観光地や離島と本島を繋ぐ港に移動できることを目指します。

移動がもたらすもの

中部・南部へ、気軽に移動できる

南北の交通軸をつくることで、北部に住んでいても通勤や専門的な医療が受けられる病院への通院ができる。また、那覇空港や中部に速く移動できる。

家族送迎に頼らず、自分で移動できる

名護を拠点とし、名護市と各市町村の地域拠点、市町村の地域拠点から自宅まで多様な交通手段で支え、こども・学生が自分で学校・部活、塾に行けるとともに、高齢者が免許を返納しても通院・買物ができる。

クルマなしで観光地や港と地域拠点を移動できる

観光地が公共交通で結ばれ、レンタカーを使わなくとも移動ができる。また、周辺離島の市町村と本島を繋ぐ港と地域拠点を公共交通で結び、シームレスな移動ができる。



- ①圏域の外とつなぐ：北部地域と中南部を結ぶ
 - ②市町村どうしをつなぐ：名護を拠点に各市町村、観光地、港を結ぶ
 - ③市町村の中をつなぐ：各市町村の地域拠点と集落を結ぶ
- 圏域を繋ぐ結節点 ○地域の拠点 ◇空港・港湾 緑の面＝市町村の中を支える範囲

5. 交通の目指す姿（離島）

離島

シームレスな移動を構築し、多様な交通手段で島内移動を支える

離島へのヒアリングやアンケートでは、自家用車への依存、運転手不足、整備士不足、観光客の増加に伴う2次交通の確保が挙げられました。

離島地域では、空港や港など、島民や観光客が多く集まる場所と市街地を結ぶこと、島の拠点と集落を多様な交通手段で支えること、観光客の移動手段を確保することを目指します。

移動がもたらすもの

シームレスな移動ができる

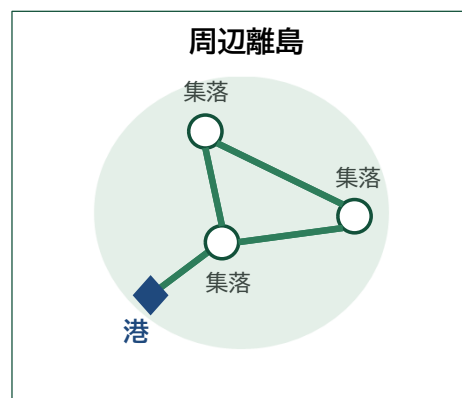
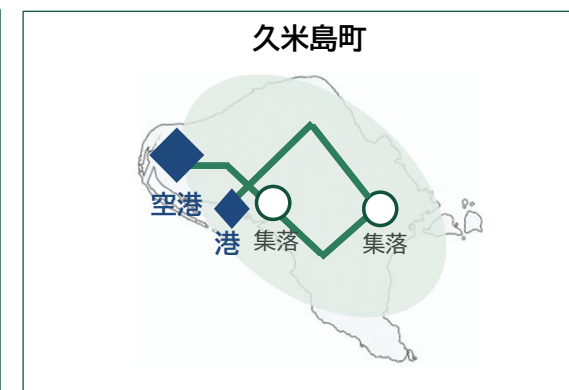
空港や港と市街地など、観光客も含めて人の行き来が多い地域間は、飛行機や船の離発着時間に公共交通のダイヤを合わせ、シームレスな移動ができる。また、クルーズ船寄港時の受入体制を強化するとともに、島民の交通手段を確保する。

島内拠点と集落を移動できる、選択肢が増える

島内拠点と分散している集落を多様な交通手段で支え、通院・買物ができる。また、地域によっては、自宅まで買物が届けられたり、自宅で診療が受けられるサービスが選択できる。

観光客が多様な交通手段で移動できる

小規模な離島は公共交通が無いこともあるため、自転車やレンタカーなども含め、公共交通以外の多様な交通手段で島内を移動することができる。



■ ①島内をつなぐ：島の玄関である港湾と中心市街地を結ぶ

■ ②島の中をつなぐ：島内拠点と分散する集落と繋ぐ

●市街地 ○集落の拠点 ◇空港・港湾 緑の面＝需要に応じて支える範囲